

平成19年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成19年10月25日
福島県病害虫防除所

1 病害虫名 プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata* (Say)

2 発生経過

平成19年10月に郡山市において街路樹のプラタナスで、グンバイムシが寄生しているとの情報が寄せられた。現地調査の結果、葉表に白化症状がみられ(図1、2)、葉裏にはグンバイムシの寄生が確認された(図3)。

本虫を採集し、横浜植物防疫所に同定依頼したところ、本県では未確認のプラタナスグンバイであると同定された。

本種は北米原産の侵入害虫で、現在までに東京都、広島県、京都府、大阪府、岐阜県、三重県で特殊報が発表されている。

3 形態

体長は雌成虫が約3.7mm、雄成虫が約3.5mmで、相撲の行司が持つ軍配に似た形態をしている。全体的に乳白色で前翅のやや前方の中央より明瞭な黒褐色紋を有し(図4)、前胸背板翼状部の周縁、前翅の前縁及び背面網目状の前翅上に棘を列生する。

終齢幼虫は黄褐色で頭部全体、前胸背の一部、翅芽の基部および腹部中央は暗色を呈する(図5)。頭部背面、体側部及び腹部背面中央に、太くて鋭い棘状の突起を有する。

4 生態

国内では1年間に3世代を繰り返す、プラタナス樹皮下において成虫で越冬するとされている。

我が国では、プラタナス及びイタリヤポプラでの寄生が確認されているが、海外ではクルミ科、ブナ科、クワ科等の広範な樹木に寄生するとされている。

5 被害

成虫・幼虫とも葉裏に寄生し、吸汁により葉表に白い脱色斑点が生じる。寄生が多い場合には、葉が白化～黄白化する。特に葉の基部の葉脈に沿った部分で、白化が多く見られる。また、葉裏には黒い粘液状の排泄物による汚れがみられる。寄生が著しく多い樹では、樹全体の葉が白化し美観が著しく損なわれる。

6 防除対策

発生が疑われる場合は、病害虫防除所へ連絡のこと。なお、樹木類のグンバイムシ類に対してはMEP乳剤(スミチオン乳剤:1000倍 6回以内)の登録がある*(平成19年10月23日現在)ので、飛散に十分注意して使用する。

*メーカーにより使用基準が異なることがあるので注意する。

7 参考資料

時広五朗・田中健治・近藤圭(2003) 我が国におけるプラタナスグンバイ(新称) *Corythucha ciliata* (Say) (カメムシ亜目:グンバイムシ科)の発生. 植物防疫所調査研究報告 39: 85-87



図1 プラタナスグンバイによる被害樹



図2 プラタナスグンバイによる被害葉 (葉表)



図3 プラタナスグンバイ成幼虫と排泄物による汚れ (葉裏)



図4 プラタナスグンバイ成虫



図5 プラタナスグンバイ幼虫